

平成27年度第3回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日時】：平成27年10月26日（月） 14：00～15：30

【場所】：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

【出席委員】：15名出席

古賀会長、杉光副会長、芥川委員、今坂委員、草野委員、佐竹委員、杉光委員、高智穂委員、田口委員、谷口委員、田原委員、鳥崎委員、沼田委員、梶田委員、南委員、安永委員、

【議事要旨】

1・開会

2・議事

（1）平成27年度まちづくり事業の今後の方向性について（報告）

（古賀会長）平成27年度まちづくり事業の今後の方向性について事務局より説明をお願いします。

（事務局）（資料1に基づき、平成27年度の進捗状況等を説明）

【質問・意見】

（古賀会長）事務局の説明に対し、質問、ご意見、感想等ないか。

（南氏）「井手の魅力再発見事業」について、イベントに1日だけ参加できるのか、継続して行かないといけないのか。

（総務企画課）参加について、5回まで予定しており、できれば第2回の講話の後、まち歩きに参加していただきたいが、募集としては、まちあるき単体でもできるように組み立てており、いつでもどこからでも参加ができる。募集は、個別に募集を行って行く予定。

（古賀会長）5番の「井手の魅力再発見事業」は、作り上げるのに苦労し、事務局が骨を折って組み立てたもの。イベントの組み立てや、来年度にむけて、ある程度の共通の合意が形成されていると思う。

（田口氏）「井手の魅力再発見事業」について、10月27日の第2回の大井手の楽校「大井手を守る会」の講話は一般の人にも広く知らせる必要がある。参加について自由だとしたほうが、井手に関して他の地域も理解ができる。私は、明日単独で出席させていただきたい。

（古賀会長）事務局と熊本大学が中心に動いているので、この件について相談しながら進めていただきたい。できるだけ核になる人を今後のために作るということ、啓発という両方の性格があるので、事務局で十分検討いただきたい。

（古賀会長）細かいことで恐縮だが、10番の「食べて、話して、繋がろう中央区」の進捗状況で隊員基準の見直しとあるが、どんなことをいっているのか、事務局でわかるなら教えてほしい。

（保健子ども課）募集を行って育成講座を実施したが、その後も参加したいという申込みが多数寄せられた。その方々を含めたところで、あらたに隊員基準を見直し、今回、育成講座を未受講の方にも隊員として活動していただくということで拡大をしたところ。

（古賀会長）事前講習の受講の有無にかかわらず、これから一緒にやりましょうということですね。

(沼田委員) 講習を未受講で隊員になる方はどの程度いるのか。

(保健子ども課) 正確な数字は今把握していないが、育成講座を受けられた方が約 30 人で、その後、手を挙げた方は 10 名前後。そのような方も一緒に活動していただく。

(佐竹委員) 9 番の「水前寺賑わいづくり支援事業」だが、去年は雨で順延になり、その結果、シンガーソングライターの小野さんが出演された。今回は、最初から出演されることになっており、地元の人がこういった場で活躍できるのはすばらしいと思う。これはお礼というか今後もよろしく願います。

(古賀会長) 小野さんのプロフィールをよかったら紹介してほしい。

(佐竹委員) 前の職場の後輩の奥さんで、たまたま知っていたが、去年は雨でピンチヒッターとして出演。もともとは福岡の方が出演する予定だったのが、熊本の方になって結果的によかったなあと思った。今回は最初から歌われるということで熊本で活躍されている方をどんどん拾い上げていくイベントになっていけばよい。一番いいのは水前寺で活躍している方の出演だが、なかなか難しいと思う。

(古賀委員) 確かにこういうきっかけに、埋もれた人材というとオーバーだが、少しがんばっている人にチャンスを与えるというか、そういった方向はいい。いろんなイベントで熊本の方というと出演者が決まってくるので、その次のクラスの方を育成していくようなことも大事。

(古賀委員) 今年度の取組みについて、ご質問、ご感想は他にないか。議事を次に進める。

## (2) 平成 28 年度中央区まちづくり事業について (資料 2 に基づき説明)

(古賀会長) 第 2 回まちづくり懇話会で検討した結果を踏まえて、こういった形で進めたいという報告。各事業について採択するかどうか確認していきたい。1「中央区いきいきクーポン (仮称) の配布」については、前回は多額の費用が必要であり、実現するのは困難という意見であったが、これについて、いかがか。何かご意見があれば願います。

前回の仮の結論を変更することはないということでもいいか。1 番の「中央区いきいきクーポン (仮称) の配布」は私たちが考える中央区のまちづくり事業になじまないということで対応したい。

2 番目「バイタルデータデバイスによる健康づくり」について、これも金額の問題、今後の見通しが技術的なものも含めて不透明ということで消極的ご意見をいただいている。いかがか。

(沼田委員) 先ほど事務局から費用対効果が考え実現が難しいということだが、それを受けて提案者側から具体的にコスト削減など提案や改善などはあったか。

(総務企画課) 最低の金額をあげているので、これを下げるのは難しいという話だった。

(田口委員) これを使うことの資格は必要ないのか。医療とも関係するので、資格がないと勝手にデータを集め使われる可能性もあるのでは。一部デモ的にやっているところがあるが、これについて今問題が出てきつつある。健康問題などのデータは、実施する事業者側に利用される感じがするので、この事業に反対する。

(佐竹委員) 実際自分でやっているが、歩数計について微妙な誤差もある、また、データを扱う資格については、今のところ必要はないので、その部分については問題ないが、蛸壺化されるのが不安。事業者側が健康のために活用するというのでどこと組むのか、資格はいいとしても、その次どこと組むのかが不明確なところが、不安なところ。この点について、もうちょっと練ってほしいと思う。

(古賀会長) 2番目「バイタルデータデバイスによる健康づくり」も、私達が考える中央区まちづくり事業には、なじまないということで不採択ということにさせていただきたい。尚、これまでの中央区まちづくり事業について、企業がこのようにまちづくりの担い手となるのは、水前寺賑わいづくり支援事業で、JR九州が実行委員会としてサポートしたというケースがある。企業の参画について、絶対だめだというわけではなく、区民や校区自治協議会と一緒にどうするか、そのような発想があるかという点で、中央区まちづくり事業になじむかどうかを判断するのではないかと思う。

事業提案3「ごみゼロキャンペーンウィーク実施による中心市街地の美化活動(仮称)」について、事業タイトルについては、今後変更するというので、これについていかがか。採択するかどうかご意見を伺いたい。

(佐竹委員) この活動に実際に参加し、2年、3年と経過を見て、グリーンバードに参加した大学生が、他のイベントでも運営委員としてやり、社会人になってもそれらの活動を続けてというのをみて、まちづくりを担っていく若手が育って、熊本に定着していくという意味ではとてもいいイベント。町内一斉清掃とはカラーが違い、若い人がカジュアルにふらっと手ぶらで来て参加できる。軍手から何から貸してもらえるので。中央区とうまく組み、活性化するということがいい。是非これは事業化してほしい。

(古賀会長) ただ今推薦の弁をいただいたが、他の委員はいかがか。反対意見等あればお願いする。

(今坂委員) 中心市街地をきれいにするのは観光客に対してもいい。反対意見ではないが、大学生のゴミ出しのマナーの悪さや近隣のトラブルを新聞で見るので、熊大のある黒髪校区、学園大学のある大江校区などをエリアとして入れてほしい。周りの人がきれいにしているのを見ると、学生も意識を持つと思う。参加しましょうというのではなく、自分達の住んでいるところを清掃しているのを見ているだけで、少し啓発もされるのではないか。中心市街地も大事だが、年に1、2回は大学のある校区をしていただく前に進むのではないかと思う。

(南会長) 反対ではないが、ここだけというのではなく、やるのだったら皆一緒にやったらいいと思う。例えば自治会の一斉清掃の日にあわせるなどすると効果があがるのではと思う。

(まちづくり推進課) 提案者と検討していたところだが、資料にも書いているが、まずは、中央区とグリーンバードと、三年坂、城見町など中心市街地でスタートしたいという思いがあり、そこから、中央区の他の場所に広げていけたらなという考えである。

大学生のゴミ出しルールの徹底については、市長との対話事業で地域の方からも意見が沢山でていて、市長も、大学生に呼びかけて入学時等にゴミ出しルールの周知のしくみづくりをやっていきたいといっている。大学生へのルール周知は、この事業とは別にやっていきたいと考えている。

(田口会長) ゴミゼロキャンペーンウィークということだが、熊本ボランティア協会が11月14日に環境美化ということで、ちらしを配られているが、これとの関連はどうなっているか。

(まちづくり推進課) 熊本ボランティア協会とは今のところ接触はしていないが、事業の提案者がグリーンバードということで、28年度の事業として、提案者と商店街と三者で事業の話を進めている。

(田口会長) 熊本ボランティア協会は、中心市街地を中心に、環境美化をやりたいということで、全市に流れていると思うが、そのことと関連して考えると、中央区だけこの取組みをやるのか、同じ日にやるのか、別の日にやるのか、それによって変わってくる。協会のイベントについては各社会福祉協議会でも、自治会でも検討している。接触がないということなら、確認していただきたい。

(古賀会長) 他に何かないか。

この事業については、採択としたい。ただ、考え方として、今いろいろご意見があったように、さしあたって中央区の若者がどんなことができるかということ私達が支えるということから出発したい。

初めから校区自治協議会などという若者は尻込みする。少し暖かく見守って、次の段階に、この若者と、校区、特に、黒髪や大江の自治協と連携を作っていくなど、2年目3年目ということでやっていくといい。

新聞でも報道されたが、夏休み以降、熊本大学の体育会のリーダーと一緒に後始末をするということをやっている。また、3月には大型のゴミが出てくるので、リクラブという学生の組織が、整理し、リサイクルをするなどの活動もある。

学生活動の1つの起爆剤になるよう、グリーンバード熊本のやりたいことをやってもらって担当の事務局でご指導いただければと思うがいかがか。3年、4年の目標は今ご発言いただいたことを考えるということで、この事業提案は採択ということにしたい。

(古賀会長) 4番「一緒に食べるとおいしいよ・・・」～「おしゃべり広場」～については、いかがか。

(今坂委員) 地域の子育てサロンなど、また、ささえりあや地域の医療機関と一緒に「いきいきサロン」を民生委員、主任児童委員が実施している。同じ場所でやっているが、合同でしているところはない。

いきいきサロンに参加する高齢者は、ひきこもっている方ではなく、元気な方が出てくる。事業としてとてもいいが、ひきこもりがちな人を誰が見つけてくるのか。民生委員はデータを持っているが、そのような人をどのように外に連れ出すか。どんなに魅力を語っても出てこない人は出てこない、こういうことをするなら、いつもの元気な高齢者が出てくる。いいことだが、本当に手を差し伸べたい人に誰が伝えに行くのか、どうやってその人たちを会場まで足を運ばせるのか、それを民生委員にさせるのは厳しいかなと思う。そのような対象をどのように集めるのか、アプローチの仕方をききたい。

(保健子ども課) 食生活改善委員からの提案で、どうアプローチをしていくかということは非常に重要な点だと思う、いろんな任務を背負っている民生委員が一番実態に詳しいので、お声かけについては、民生委員のお力なしではできないと思う。ひとつのキーワードをお食事会として、健康な食生活を皆で考えましょうという場面を用意し、参加いただけませんかというアプローチをし、今まで出不精だった方にきていただくということがこの事業のねらい。ネックな部分があるが、事業の趣旨として、もうひと骨折り民生委員さんをお願いできればと思っている。

(田口会長) この問題について、一例としてお聞きしてもらいたい。出水南校区では、校区全体で、各町内から5人ずつ、ひとり暮らしの方や、体が不自由な方を迎えに行き、集め、ふれあい交流会をしている。小学校や幼稚園、地元の有志の方の踊りと食事を提供し、送迎をつけるという事業を実施。これを区全体でやるとなると規模的に大変である。校区単位での実施に支援をするという形がいいのでは。

(保健子ども課) おっしゃるとおり、校区単位で実施する予定。平成28年度については、19校区中、約半分の9校区ぐらいで事業が実施できればと思っている。送迎については、手立てや、具体的な方法は考えていないが、足の不自由な方もいらっしゃるの、送迎の部分も考えるといい事業になると思う。

(佐竹委員) 民生委員に情報が集まり、責任も集まり、非常に大変な中、どのように対象者を把握するのか、校区単位で実施という話をききながら、まさに、校区割り電子地図が利用できないか。出不精の人を地図の上にプロットしていくというのは、極めてプライベートの情報なので、しっかり使わないといけないが、これまでやってきたことが活かせるよいきっかけになるのでは。その部分を前やったことで解決できるなら、ハードルは低くなるのでは、

(今坂委員) 食生活改善委員は、各校区により人数にばらつきがあり、活動に対する温度差がかなりある。校区に差が出ないように、考慮してほしい。

(鳥崎委員) 民生委員として話をすると、事業の発想はとてもよいし、やってみる価値はある。1人暮らしの高齢者に限定するのではなく、高齢者だけの世帯についても大変心配な状態だが、高齢者と中年の息子さん、娘さんとの2人暮らしという世帯もかなり多い。そのような高齢者も呼べたらいいなと思う。子ども達と関わっていただくということは大変いいことで、私の校区でも、近くに幼稚園や保育園のある町内では、すでにやっている。校区単位で行うと思うが、実施するときはもっとせまい町内単位、高齢者は行動範囲が大変狭いので、普段見ることもない子ども達よりは、近くに住んでいる子どもと交流できる状態になれば、もっといいかなと思う。民生委員は大変だけど、よい目的で、よい結果があるならば、皆さん一生懸命協力すると思う。

(谷口委員) 食生活改善委員が校区ごとで集まって、栄養指導、食事を提供し、バランスのいい食材の説明をするなど、年に1回程度開催している校区がある。活発なところ、人数が多いところは、小学校までいたり、高校生、特に家族と食べない高校生と一緒に食べたりとしている。

事業説明にあるように、健康寿命の延伸ということも含めて、高齢者にとっても食べることは大事だし、子どもにとっても食べることは、食育ということをいわれているので、とても大事なことだと思うが、どのように対象者を集めるということも大事。活動費の確保ということで、食材費や会場使用料等があるが、食事の大事さについていろんなリーフレットはあるが、そのあたりを含めてPR用で、それを広報する媒体があるといいと思う。高齢者も低栄養など危険性が一番高い。

先ほどのようなご意見のように校区一箇所に集めるのは大変なので、町内、またはいくつかの町内が一緒になって、歩いていける身近なところ、車を出さなくていいような所など、具体的なところを考えていけない問題。事業に対しては、賛成だが、やり方、進め方を考えていけないといけないと思う。

(古賀会長) いろいろなご意見があったが、総合的に勘案すると事業は採択する。

意見交換の中で3点でてきた。一つ目が引きこもりがちな高齢者という対象の捉え方をもう少し幅広く考えてみる、こういうレッテルを貼られるとかえって問題も出てくる。二つ目は基本的には食生活改善推進協議会が中心となるにしても、校区で活躍されているいろんな機関や団体との関係。例えば老人クラブなど熊本市ではまだまだ元気な老人クラブなので、こういったところに広がっていくと老人クラブの友愛ホームの中から、そういった人と接触が出てくるかもしれない。三つ目は、ご案内のとおり、平成27年度から介護保険制度が大幅に変わった。平成28年度から地域総合支援事業がはじまり、包括ケア、食生活を含めた食をどういう風に位置づけるかというのが本格的になる。そういった中、やはり地域でどうやって支えていくか、食生活改善委員というこれまであまり場面がなかったところと一緒に、担い手としてうまく活動できる場面、活躍できる場面が提供できるのではないかな。そういったことを含めて、今後、採択は採択としても、いろいろ細心の注意を払うべき事項、個人情報など、そのあたりも留意しながら進めていただくとして、アイデアとして採択させていただく。

(古賀会長) 5 「Start-up,中央区。～中央区内に存在する様々な課題の解決を図るためのワークショップ

の実施及びそこで出た多種のアイデアの実現～」について、前回特に意見なしということだった。

事務局から、山鹿市で実施されている部活サロンという事業を中心に、そういった方向で可能ではないかという案がでている。

(安永委員) 若い人を中心ということなので、是非採択してほしい、選挙権が18歳以上ということもあって、若い人がまちづくりに関心を持つのはどんどん大事になってきている。事業に取り組むにあたり、高校、大学の講義と連携すること、また、学生は文化祭やテスト期間があるということを考慮してほしい。

(沼田委員) 若い人を中心にまちづくりに関心をもってもらうということは、安永委員と同じで、賛同できる。若い人が参加するということが、まちづくりに全く興味がない人に、こういうことをやってもらうということを知ってもらうのは難しいと思う。山鹿市で実施している事業について、どのように実施しどのように施策として活かしているのかわかれば教えてほしい。

(総務企画課) 山鹿市では、ちらしや市の広報紙などで募集している。20代から40代を対象としているが、20代から60代くらいの方が20人くらい集まっている。9月から12月にかけて5回のワークショップ等で、アイデアを具体化し、その具体化していく中で、まちづくりにつながっていくのではということとされている。具体化する際に、行政が金銭などの支援を全くせず自分達でやる、またひとりではできないので、参加者でグループをつくり協働でやるということで、実践的にまちづくりを学んでいる。

先ほど、高校生や大学生も参加できるようにというのだが、山鹿市では夜に開催し、働いている人や学生も参加できるようにしているので、中央区で実施する際もその点は考慮していきたいと思う。

(沼田委員) 広報で集めるということだが、大学の講義や高校の授業で興味をもってもらう人を見つけるといい。熊大や崇城大にまちづくりや、都市計画などの研究室もあるので、興味のある学生を見つけるという方法も考えてほしい。

(佐竹委員) 定員20名とくぎって、対象を市内に在住、勤務、20歳から40歳くらいの方と区切ってあるので、安永委員がおっしゃったように、高校生を巻き込む形にするならば、そこを検討するとよい。

(古賀委員) 私のようにまちづくりをやっていると、若い人というと40代と思うが、20代30代、高校生という発想がなかったが、検討してほしい。他にご意見は。

5番の提案についても、反対意見がないので、採択としたい、ただし、進めるにあたりどういった人を集めるのか、高校生、大学生、それに適した誘い方があるだろうということで、工夫していただきたいというご要望。アイデア提案書をみると、基本的には、グループワークやワークショップが中心、まちづくりをする若い人をひきつけるために、ワークショップがきちんとできるファシリテーターとして活躍できるような内容の研修、実地で勉強するという研修がふさわしいと思う。先ほど紹介があった、部活サロン in 山鹿は、20人に限定しているのは、スキルアップした人を20人つくり、その人たちが5人呼んでくると100人、まずは、20人、30人、100人と段階的な年次的な計画をひとつ考えてほしい。

とりあえず、この団体もグリーンバードと若い人が始める場を私達が邪魔しないようにしたい。具体的な実施計画を進めていってほしい。

アイデア提案について、

- 1 「中央区いきいきクーポン（仮称）」の配布」は採択しない
- 2 「バイタルデータデバイスによる健康づくり」は採択しない

- 3 「ごみゼロキャンペーンウィーク実施による中心市街地の美化活動」は採択する
- 4 「一緒に食べるとおいしいよ・・・」～「おしゃべり広場」～採択する
- 5 「Start-up,中央区。～中央区内に存在する様々な課題の解決を図るためのワークショップの実施及びそこで出た多種のアイデアの実現～」採択するとする。

今の段階で、作業部会を設置するという事は考えてない。

(佐竹委員) 先ほど、高校生にどうリーチするかということだったが、熊本市のメディアで一番高校生にリーチしそうなのが、市長のツイッターだと思いがいかか。

(区長) 市長個人のツイッターということだが、そういう話がこの会議ででたということをお伝えたい。ツイッターは以前検討したが、行政としてなかなか運営が難しい。私達が扱っている中で若者に向けてはフェイスブック。

(古賀委員) 若い市長というのは、最大の武器。総合計画はいつ頃策定するのか。

(区長) 今年度末。

(古賀会長) 実際に、本提案が動き出す平成 28 年度は、総合計画を持って、各自治協のレベルで広げていく。その中に高校生であるとか市長もあちこちで出られているので、そういった講演、トークなどあるのでは。選挙権も 18 歳以上で話題になると思う。大切なことは、どういった中央区の課題を若い人たちに考えてもらうのか、その当たりだと思う。地域課題は、年齢層でぜんぜん違う。熊本市の市政でこれまで若者政策がなかった。若者政策をどうやってみ上げていくのかということも 5 番の提案は大きな意味があるのではと思う。

(古賀会長) 他に何かあるか。

(杉光委員) 若者をとりあげるいいと思う。5 番にあるよう、どうやって意見を吸い上げて、私達大人が自由にさせていくかということなので、そこの組み立てを中央区でサポートしてほしいし、サポートする人材もいろんな方面から活用すると思う。途中から入った感想だが。

(3) その他について

杉光副会長より、水まち水前寺にぎわい祭りの説明

(事務局) 日程について、2月12日(金曜日)午後4時から実施する予定。